第2回　関西支部研修会

これからのインプラント治療はどうあるべきか？

Minimum Invasion & Maximum Income

講師：佐藤孝弘先生

日時：平成29年9月3日(日)
場所：梅田センタービル

田中　祐介（京都府）

これからのインプラント治療はどうあるべきか？という演題にてご講演いただきました。

患者様が感じた満足度の高い項目として、一番目に診察室の清潔さ、二番目に待合室の快適さ、三番目にスタッフの親切な対応、四番目に診察室の快適さ、などが続きます。また、逆に満足度の低い項目として、ダントツに一位なのが、治療期間の説明である、とのことです。二位に最新の治療機器であるか。これは購入すれば対応できます。三つ目に痛くない治療、と続きます。治療期間に関しては、ゴールを決めてそこから逆算して日にちを決めていくことで、一回の治療を急いで雑に行わず、効率的に治療を望まれている、とのことで、患者様のニーズを汲み取りながら治療を行う必要があると感じました。

インプラントを行う上で、抜歯後期間を置けばおくほど成功する、というわけではなく、理想的には8週目ほどがベストということで、それに伴いソケットプリザベーションを行うかどうか、も判断ができるとのことです。

インプラントと同時にGBRやCTGをフラップレスで行うことで結果が安定するとのことで、これが最先端である、とのことでした。

インプラントをおこなうための3つの要素として、

1)Surface
2)Position
3)Superstructure

の三つがあります。ポジション決めは非常に大事なものです。インプラントは、きちんとした位置で埋入しないと、深く入れると骨吸収をおこしてしまいます。

これからのインプラントとしては、破損トラブルが無いことが重要になります。

メタルボンドは金属代金が高いのでジルコニアアバットとEmaxも選択肢の一つになります。

ジルコニアはチェアサイドで研磨をした程度だと、半年もするとラフな状態になりやすく、機械的・人工的に研磨させているものは対合歯のエナメル質にクラックを起こしています。

インプラントオーバーデンチャーに関しての話もありました。上顎IODは、長期的予後がよいものはこのままブリッジにしても問題がないもの、が長期的な生存率が高くなります。

今後、近い将来、欠損は少なくなり、インプラント治療は少数歯欠損に限定されていきます。歯科治療は審美治療、予防メンテナンスが重要になってきます。

現在のインプラントだけでなく、半年後どうなっていたいかを常に考えさせていただき、また、最新の歯科治療情報も学ぶことができましたので貴重なお時間をありがとうございました。診療に活かしていこうと思います。